高等学校

平　成　6　年　度

教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

平成6年度

教育研究員名簿

	氏名	学校名
体育	河野隆之	都立城南高等学校
	斉藤聡	都立駒場高等学校
	田中久子	都立富士高等学校
	渡部英明	都立水元高等学校
	久保田直実	都立葛西南高等学校
	○馬場寿	都立日野高等学校
	鈴木信也	都立多摩工業高等学校

	氏名	学校名
保健	○小林幹彦	都立豊多摩高等学校
	大滝修弘	都立成瀬高等学校
	臼井弘	都立八王子高陵高等学校
	◎寺島彰	都立砂川高等学校
	久保淳	都立東大和南高等学校
	中山秀道	都立永山高等学校

◎全体世話人　○副世話人

担当　体育部体育健康指導課　指導主事　本村清人

指導主事　柿添賢之

目　　次

主題「主体的に考え判断し、進んで学習する能力と態度を培う学習指導の工夫」

体育――サッカー　　保健――生活行動と健康（薬物乱用と健康）

Ⅰ　研究主題と研究経過

1　主題設定の理由 …… 2

2　研究の方針 …… 2

3　研究の経過 …… 2

Ⅱ　研究の内容

「サッカー」

1　研究内容 …… 3

2　「サッカー」の特性とねらい …… 3

3　意識・実態調査とその考察 …… 3

4　指導計画 …… 5

5　指導事例（実証授業） …… 8

6　指導結果とその考察 …… 12

7　まとめと今後の課題 …… 13

「生活行動と健康（薬物乱用）」

1　研究内容 …… 14

2　意識・実態調査とその考察 …… 14

3　指導計画 …… 17

4　指導事例（実証授業） …… 19

5　指導結果とその考察 …… 22

6　まとめと今後の課題 …… 24

主題「主体的に考え判断し、進んで学習する能力と態度を培う学習指導の工夫」
体育――サッカー　　保健――生活行動と健康（薬物乱用と健康）

Ⅰ　研究主題と研究経過

1　主題設定の理由

平成６年度より新学習指導要領が学年進行をもって実施され、また来年度からは月２回の学校週５日制が導入されるなど、学校教育は大きな改革が求められている。

学習指導要領では、生涯学習の基礎を培うとの視点から、自ら学ぶ意欲を高めることや社会の変化に主体的に対応できる能力の育成が求められている。教科「保健体育」では、運動の意義や価値に対する認識を深めさせ、学ぶことの楽しさや成就感を体得させるとともに、生涯を通じて健康を科学的にとらえ、直面する健康問題に的確に対応できる人間を育成する必要がある。本年度は、研究主題：「主体的に考え判断し、進んで学習する能力と態度を培う学習指導の工夫」をかかげ、科目「体育」では、生涯体育・スポーツの基礎づくりという観点から選択制授業の「サッカー」、科目「保健」では健康教育の充実という観点から「生活行動と健康」の単元の中の「薬物乱用と健康」の学習を通して主題にせまることにした。

2　研究の方針

研究は体育班と保健班に分かれて行い、体育班では「サッカー」、保健班では「薬物乱用と健康」について生徒の意識・実態を調査し、実証授業を行い、その結果を考察し検証する。

(1)　体育班「サッカー」では、選択制授業のねらいを十分に理解させるため、オリエンテーションを重視するとともに、一人一人の能力・適性に応じた指導の充実を図るため、学習ノートや学習資料を有効に活用し、自ら学習を計画・立案し、実践していけるような指導計画を作成し、研究する。

(2)　保健班では小単元「薬物乱用と健康」の学習において、グループによる話し合いやロールプレイング等の学習方法により、個人の生活行動と健康との関わりについて理解を深めさせるとともに、思考力・判断力並びに豊かな表現力を育成し、自ら適切な意志決定や行動がとれることをねらいとした指導計画を作成し、研究する。

3　研究の経過

４・５・６月　研究主題の設定、研究計画、研究構造図の作成。
７・８月　実態調査および集計、分析、考察、仮説の設定、指導計画、内容の検討。
９・10月　指導計画の作成、実証授業、結果の分析、考察。
11・12月　報告書の作成、副資料の作成。
１・２月　研究発表の準備、研究発表、本研究の反省と整理。

Ⅱ　研究の内容

『サッカー』

1．研究内容

「生涯にわたって自ら進んで運動やスポーツに親しむことができるような能力や態度を身に付ける」ことをねらいとしたこれまでの教育研究員の先行研究の成果を踏まえ、授業の工夫について研究を継続し、発展させることとした。本年度は、「主体的に考え判断し、進んで学習する能力と態度を培う学習指導の工夫」を主題に、体育班は「サッカー」を通して、生徒が自主的、主体的活動を行っていくための学習課題の設定の仕方や、学習活動の計画や実践の工夫に重点を置き、研究を進め主題にせまることとした。

そこでサッカーの授業と選択制授業に関する意識・実態調査を実施し、その集計結果をもとにして以下のような仮説を設定した。

☆仮説　「サッカーのゲームを通し個人やグループがそれぞれの実態に応じて適切に学習課題を設定し、学習活動を計画・実践することにより、生徒一人一人が主体的に判断し、進んで学習する能力と態度を培うことができる。」

上記仮説を検証するために指導計画を作成し、実証授業を行い、その結果を分析・考察した。

2．サッカーの特性とねらい

(1)　特　　性

ア　手を用いないでボールを運び、相手との攻防の中でゴールに得点することを競うところに、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

イ　グループの中で、生徒一人一人が個々の特性や役割を自覚してその責任を果たし、お互いに協力し合うことで、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

(2)　ね　ら　い

ア　個人やグループの実態に応じて適切に学習課題を設定し、学習活動を計画、立案及び実践することにより、主体的に学習する能力や態度を高める。

イ　個人やグループの能力・適性に応じた練習を行うことにより、より高い技能を身に付ける。

ウ　適切な練習・ゲームを通して、ルールやマナー及び審判法を理解し、スポーツマンシップやフェアプレーの精神を育てる。

3．意識・実態調査とその考察　　調査時期　平成6年6月

(1)　調査対象　都立高校保健体育科教諭　23校　93名

都立高校生徒　男子　1学年245名　2学年248名　3学年252名　計745名

(2)　調査内容

〔生　徒〕

- サッカーの特性について
- グループ分け、授業形態について
- 学習課題の設定方法について
- 学習ノートの内容について
- サッカーの不得意な生徒について
- 学習評価と評価の観点について

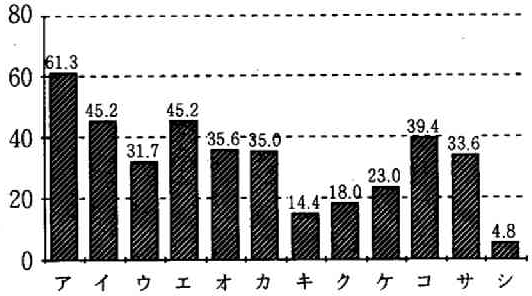
〔教　師〕

- 選択制授業について
- 授業形態について
- 学習課題の設定方法について
- 学習ノートについて
- サッカーの不得意な生徒について
- 学習評価と評価の観点について

(3) 結果と考察

ア　年間指導計画の中に、選択制授業を位置付けて実施している学校は調査した高校のうち69%であり、実施校の49.5%でサッカーを取り入れている。また、その授業形態としてはグループによる学習が72.0%である。

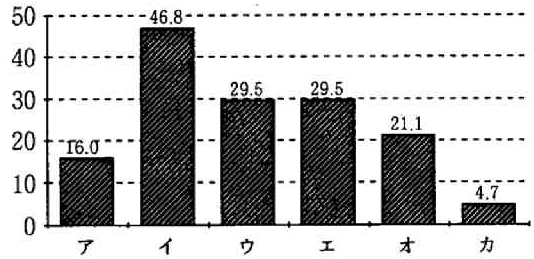
イ　サッカーの授業で、生徒が楽しさや満足感を感じるときは、「ゲームに勝ったとき」「シュートが決まったとき」「味方に良いパスが通ったとき」をあげている。このことからゲームを通してグループ内における各自の役割やチームプレーを身に付け、グループの力の向上を図りゲームの質を高め、ゲームに勝つ喜びを体験させることが大切である。



（3－3）あなたは、サッカーの授業で、今までどのような時に楽しさや満足感を感じましたか。（複数解答可）
ア．ゲームに勝った時
イ．シュートが決まった時
ウ．シュートを防いだ時
エ．味方に良いパスが通った時
オ．パスをカットした時
カ．相手をドリブルで抜いた時
キ．先生に誉められた時、または、親切なアドバイスをもらった時
ク．お互いにアドバイスしあって、協力できた時
ケ．友人に認められた時
コ．自分のイメージ通りに出来た時
サ．精一杯運動したと感じた時
シ．その他（　　）

ウ　グループの決め方については、生徒は「生徒がきめる」59.5%、「先生と生徒が相談して決める」24.2%、また教師は「生徒と先生が相談して決める」59.1%、「生徒が決める」37.1%と答えている。このことから生徒主体に話し合いで決めさせ、教師は適宜アドバイスを行うことが望ましいと考えられる。

グループの編成基準については「戦力差がでないように」が生徒50.2%、教師52.7%と最も多い。また、ゲーム後の喜びとしては「接戦で勝った時」46.8%で最も多い。このことから、自他の能力・適性を把握するためにスキルテスト・試しのゲームなどを行い、勝敗の未確定性を考慮した戦力差の出ないグループ分けが重要と考えられる。



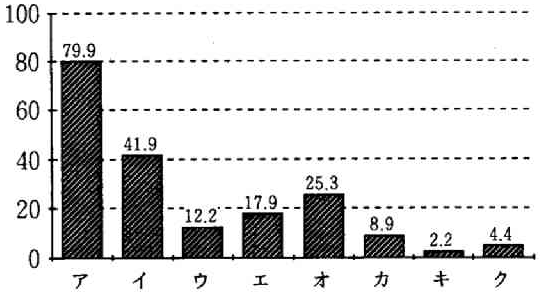
（3－4）あなたは、ゲームの後、チームとしてどのような時にもっとも喜びを感じましたか。
ア．楽勝した時（5対0など）
イ．接戦で勝った時（1対0など）
ウ．コンビネーションプレイが決まった時
エ．全員が役割を果たした時（全員が頑張った時）
オ．練習したことがゲームに生かされた時
カ．その他（

エ　学習課題の設定方法については、教師は「生徒と教師がともに行う」45.2%と多くが答えているが、生徒は「教師が行う」ことを31.5%望んでおり、教師に依存する傾向が強い。このことから、学習ノートの活用などにより、グループ毎に教師が適切な指導や助言を与えたり、使い易い学習資料を提供することにより、生徒がグループや自己に合った学習課題を自ら設定し、グループで協力して学習活動を進められるよう配慮することが大切である。

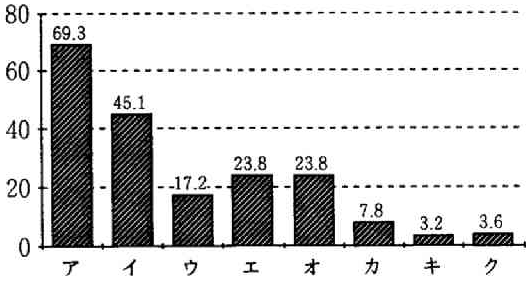
オ　学習ノートに必要な項目については、生徒は「対戦表」54.3%、「グループの反省」38.5%、「教師のアドバイス」34.7%を、一方教師は「グループの目標」94.5%、「事前の練習計画と練習内容」91.3%、「グループの反省」90.2%が必要と答えている。このこと

から内容としてグループのものと個人のものが必要である。また記入時間は授業時間ではなく、休み時間に行うと答えた生徒が多いが、授業時間内に行うことが望ましく、記入時間の短縮を図るために内容の精選が必要であると考えられる。

カ　サッカーが不得意な生徒に対しては「明るく楽しくやる」ことを生徒79.9%、教師91.5%と共に最も多く望んでいる。また、生徒自身がサッカーが不得意な場合に「他の生徒から自分にどのような要求をしてほしいか」という質問に対しては、69.3%の生徒が「明るく楽しくやる」と答えている。このことから不得意な生徒がグループ内に溶け込み、自主的・意欲的に活動できるようにするために、リーダーを中心にお互いの個性や能力を尊重し、協力して学習が進められるよう配慮する必要がある。



（12－2）グループ（班）内にサッカーが不得意な者がいた場合、そのメンバーにどんなことを望みますか。
ア．明るく楽しくやること。
イ．個人的技能（パス・トラップ・シュートなど）の習得。
ウ．集団的技能（オープン攻撃・速攻練習など）の習得。
エ．ミスをしないこと。
オ．よく走ること。
カ．ディフェンスだけをやること。
キ．オフェンスだけをやること。
ク．その他（　　）



（12－3）自分自身サッカーが不得意であるならば、どんな要求をしてほしいですか。
ア．明るく楽しくやること。
イ．個人的技能（パス・トラップ・シュートなど）の習得。
ウ．集団的技能（オープン攻撃・速攻練習など）の習得。
エ．ミスをしないこと。
オ．よく走ること。
カ．ディフェンスだけをやること。
キ．オフェンスだけをやること。
ク．その他（　　）

キ　評価については、「まじめに一生懸命にやっているかどうか」を評価すると答えた生徒が81.9%、教師が89.2%と最も多い。次いで「技能がどれだけ上達したかどうか」を評価すると答えた生徒が73.8%、教師が45.1%となっている。すなわち、生徒・教師ともに授業への取り組み方や技能の向上の度合いを評価の観点として重視していると考えられる。

4．指導計画

(1)　指導の方針

ア　サッカーの特性を理解させ、ゲームを通してサッカーの楽しさに触れられるように配慮した。

イ　生徒やグループが適切な課題をもち、学習資料・学習ノートを活用しながら学習計画を立案し主体的に考え判断し、学習が進められるようにした。

ウ　自他の健康・安全に留意し、互いに協力して学習できるようにした。

(2)　指導の工夫

ア　オリエンテーションの重視

自ら選び、自ら学ぶという選択制授業のねらいを十分に理解させ、単元全体の見通し

をもたせるために、オリエンテーション等の「学習Ⅰ」に4時間をあて充実させた。特に2、3時間目は、試しのゲーム及びスキルテストを実施し、個人の課題の発見やグループづくりに役立たせるとともに、今後の学習を進めていくうえでの参考とさせた。

イ　グループ編成の工夫

練習及びゲームを円滑に楽しく行わせるために、各グループの戦力が均一になるように工夫した。具体的には、試しのゲーム及びスキルテストの結果や、教師の助言を参考にして生徒の話し合いでグループ編成を行った。

ウ　学習過程の工夫

「今もっている技能を生かしてゲームを楽しむ」段階から、「高まった技能に応じて作戦を立て、グループの特性や自己の役割を生かしてゲームを楽しむ」段階へと学習するねらいを明確にし、個人とグループの実態に応じた適切な学習課題をそれぞれ設定できるようにした。

エ　ゲームの重視

毎時間ゲームを行うことによってサッカーの楽しさに触れさせると同時に、ゲームを通じて個人及びグループの課題を生徒自身に気付かせ、教師の適切な支援のもとに生徒自らが学習計画を立案、実践し、課題を解決させるようにした。

オ　学習資料の有効な活用と工夫

サッカーの技能を段階ごとに分けた学習資料を用意し、各グループの課題に応じた学習計画を作成したり、学習活動を効果的かつ円滑に行うために十分活用させた。

また、サッカーが不得意な生徒などに、より楽しいサッカーを目指すことができるように学習資料を工夫し、一問一答集を作成した。

カ　学習ノートの充実

生徒の自己評価及び相互評価の能力を高めさせるため学習ノートの充実を図り、次の学習課題の設定に生かすことができるように工夫した。また、中間まとめにおいて学習ノートを利用して選択制授業の趣旨が理解されているか、自主的・計画的に学習が進められているかどうかなどを確認させた。さらに自己の技能やグループの活動状況を正確に把握させ、次の段階の学習課題の設定に生かせるようにした。

キ　サッカーの不得意な生徒への指導の工夫

サッカーの不得意な生徒にも自分の力に合った目標を持たせ、自己の課題を自らの工夫や努力、グループの協力、リーダーの指導等によって解決させるようにした。またグループ内での役割分担等に配慮し、自分もグループの一員であるという自覚を持たせるようにした。

ク　自己・相互評価や計画のための十分な時間を確保する工夫

授業開始時に打ち合せの時間を設定し、本時の課題や学習内容などを確認させるとともに、授業終了前には必ずグループでの自己・相互評価の時間を持たせ、次時へのグループや個人の課題を確認させ、学習計画を立てるうえでの重要な時間であるということを自覚させた。

(3) 単元計画

ア．今回は、第３学年男子を対象に20時間を配当した。

イ．スキルテスト・試しのゲームを参考にグループ編成を工夫するとともに、中間まとめでよく自己・相互評価させ、新たな学習課題を見つける際に、サッカーの不得意な生徒への支援の仕方を考えさせ、誰もが進んで学習できるように配慮した。

段階	時間	ねらい	生徒 学習活動	評価	教師 指導上の留意点
学習Ⅰ（オリエンテーション等）	1	選択制授業の趣旨と進め方を理解し、学習計画立案のための課題の設定の仕方を理解するとともに学習への意欲を持つ。	①選択制授業の趣旨・概略の理解 ②学習ノートの活用方法と評価についての理解 ③学習資料の効果的な活用の仕方の理解 ④学習計画の作成の仕方の理解 ⑤毎時の授業の進め方の理解 ⑥グループ編成の仕方 ⑦役割分担の仕方	◇選択制授業の趣旨・概要が理解できたか。 ◇学習の進め方が理解できたか。 ◇学習資料・学習ノートの活用の仕方が理解できたか。	◆選択制授業の意義を理解させる。 ◆学習の進め方、評価の理解を深めさせる。 ◆学習資料の効果的な活用方法を理解させる。 ◆学習の進め方を理解させる。 ◆グループ編成についてはスキルテスト、試しのゲームの結果により各グループの総合力が均等になるように決めることを理解させる。
	2	スキルテスト・試しのゲームの結果からグループ編成を考える。	①スキルテスト ②試しのゲーム ③グループ編成のためのリーダー選出	スキルテスト・試しのゲームの結果を正しく自己評価できたか、又今後の学習活動に生かすことができたか。	◆スキルテストのねらいと実施方法を理解させる。 ◆スキルテスト・試しのゲームの結果を自己評価させ、課題意識をもって学習を進めるように指導・助言を適切に行う。
	1	単元の学習計画を立てる。	①学習ノートの具体的記入の仕方の理解 ②学習計画の立案の理解 ③学習計画の作成 ④役割分担	試しのゲームの結果を正しく自己評価し、課題にそった学習計画が立案できたか。	◆試しのゲームの結果を自己評価させ、学習課題と学習方法を見いだせる指導、助言を適切に行う。
学習Ⅱ ねらい1	7	選択制授業の学習方法に慣れると同時に、個人およびグループの課題に基づいた効果的な練習を工夫して計画・実践し、ゲームに生かす。	①本時の学習計画の作成 ②試合の方法・ルールの話し合い ③学習計画に基づく自主的な活動 ④練習した技能を生かしたゲーム ⑤グループ毎の評価 ⑥サッカーの不得意な生徒への支援 ⑦グループ毎に施設や用具の片付け	◇グループ毎に活動が計画通り出来たか。 ◇本時の計画が適切であったか、次の課題が見いだせたか。 ◇互いに協力して安全に留意した活動ができたか。	◆活動中の指導・助言を適切に行い、計画に沿った活動をさせる。 ◆本時の活動の評価を積極的に行わせ、個人及びチームの次の課題を見いだせる。 ◆グループ毎に活動が円滑に進むように指導する。 ◆安全について十分な配慮が行われるように指導を徹底させる。 ◆グループを巡回し評価内容等について助言する。
中間まとめ	1	選択制の授業の進め方や学習活動を反省し、計画の再検討を行う。	①学習ノートを利用して学習活動の評価 ②今後の学習計画の再検討 ③新たな学習課題の設定 ④学習計画に基づく自主的な活動 ⑤学習成果の発表	学習ノートの結果を今後の学習計画に生かしたか。	◆学習ノートの評価をもとにした、話し合いの場で得た意見を参考に学習活動の再検討を行わせる。 ◆十分に意見を出し合い、学習活動の再検討を行わせる。その際、サッカーの不得意な生徒への支援を考えさせる。
ねらい2	7	中間まとめでの成果を生かし、より高いレベルの課題を設定し、その解決のために効果的な練習を工夫して計画・実践し、ゲームに生かす。	①新たな学習課題に基づく自主的な学習活動 ②練習した技能や作戦を生かしたゲーム ③グループ毎の反省・評価 ④グループ毎に施設や用具の片付け	◇各グループが課題解決を図るために自主的・主体的に活動できたか。 ◇練習した技能や作戦を生かしてゲームができたか ◇学習計画・学習方法が適切であったか。 ◇互いに協力して安全に留意して活動ができたか。	◆活動中の指導・助言を適切に行い、新しい課題に挑戦させたり、活動の仕方を工夫させることにより主体的に課題に取り組ませる。 ◆安全面について十分配慮し協力的に活動が行われるように指導を徹底する。 ◆練習した技能や作戦がゲームに生かせるよう助言する。 ◆次時の課題が適切に見いだせるように評価内容等について助言する。 ◆中間まとめで考えた、サッカーの不得意な生徒への支援はどうだったかを判断させる。
まとめ	1	単元のまとめと反省を行うとともに次に生かすことを考える	①学習ノートの整理 ②自己評価・相互評価 ③グループ毎の学習全体のまとめ・評価 ④感想文	◇ゲームを通じ、サッカーの楽しさに触れられたか。 ◇技能が向上したか。 ◇グループの活動が協力してできたか。 ◇進んで学習する能力が身についたか。	◆グループ毎にまとめと評価を行う。 ◆学習ノートをもとに、十分な話し合いをさせる。 ◆正しく自己評価・相互評価ができるように助言する。

注）運動種目の選択は、年度始めに総合オリエンテーションを実施し、決定している。

5．指導事例（実証授業）

単元名	サッカー	配当時間	20時間中　1時間目	学　年	第3学年1．3．5組　男子46名
本時のねらい	◎オリエンテーション ・選択制授業の趣旨、概要を理解する。 ・グループ毎に学習する内容・方法と学習計画の作成の仕方について理解する。 ・学習ノート、学習資料の効果的な活用方法と評価について理解する。 ・サッカーの特性を理解し、フェアープレーのもとに安全に、協力して学習することを理解する。				
施設用具	・視聴覚室　・学習ノート　・学習資料　・サッカーのビデオソフト				

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	10分	・集合 ・挨拶 ・出欠調査 ・本時の説明	・今まで行ってきた単一種目必修型の授業から、生徒の運動欲求や興味・関心、能力・適性等の実態に合った選択制授業について理解する。	・生涯にわたって、生活の内容として自ら進んで運動やスポーツに親しむことができる能力や態度の育成に結びつけて、選択制授業を理解させる。
展開	5分	・サッカーの選択制授業の進め方	・個人やグループで課題を見つけ、課題解決のための学習を行い自主的・主体的に進めていく授業の全体像を理解する。 ・「計画、実施、評価」の学習の流れを理解する。 ・オリエンテーション以外の時間はグループ毎に集合し、出欠調査、本時の活動内容の確認、施設・用具の準備、準備運動、学習活動の実施、整理運動、まとめ、片付けという授業の流れを理解する。	・生徒が主体的に取り組めるように具体的に流れをイメージさせ、授業の進め方を十分理解させる。 ・グループでの学習、活動の意義を理解させ、お互いに協力し合い、意欲的・積極的に取り組むことを理解させる。 ・生徒が自ら種目を選び、自ら学び、教師はそれを支援することを理解させる。
	5分	・学習計画の作成の仕方	・学習課題を解決し、学習を進めていくために16時間の全体計画を立案することを理解する。 ・全体計画に即して毎時間、個人やグループの課題を発見し、それに基づいて学習計画を立てることを理解する。	・選択制授業は、個人とグループが、それぞれ課題を設定し、自主的・主体的に学習活動を行うことが必要であることと、そのために適切な学習計画を立てることが大切であることを理解させる。 ・学習計画は無理をしないで個人、グループで段階に応じた計画を立て、教師が適宜、指導・助言を与えることを理解させる。
	5分	・学習資料、学習ノートの効果的な活用方法と評価	・学習資料、学習ノートの効果的な活用方法を理解し、目標設定や課題解決のために積極的に活用していくことを理解する。 ・個人やグループの課題を見いだすための自己・相互評価を理解する。	・学習資料、学習ノートを参照させる。 ・個人やグループが必要に応じた練習方法を見いだし、実践していくことを理解させる。 ・学習ノートの提出期限を守らせる。
	20分	・サッカーの特性	・サッカーの歴史・変遷について触れ、何故フェアープレーの精神が根底にあるのかを理解する。 ・ゴールシーンのビデオを見ながらサッカーの持つ魅力に触れる。	・もともとサッカーは荒々しい競技であったが、フェアープレーに徹して戦うためにルールが作られたことを理解させる。 ・ビデオを見ながら、自分の意図したプレーができた時の楽しさやゴールした時の喜びに触れさせる。
整理	5分	・次回の説明 ・挨拶 ・解散	・次回はグループ編成をするためのスキルテストを行うことを理解する。	・スキルテストはあくまでもグループを編成するためのものであることを理解させる。 ・準備等の指示をしておく。

単元名	サッカー	配当時間	20時間中　2時間目	学　年	第3学年1．3．5組　男子46名
本時のねらい	◎スキルテスト ・戦力差のないグループを編成するためのスキルテストであることを理解するとともに意欲的に行うようにする。 ・サッカーに必要な技能、スピード、ボールコントロール等の自己の能力を知るとともに、他の生徒のよさを知り、グループ編成に生かすようにする。				
施設用具	・サッカーボール　・サッカーゴール　・ストップウオッチ　・セーフティーコーン ・ビニール紐　・記録用紙　・筆記用具　・石灰　・ラインカー　・メジャー　・旗				

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	10分	・集合、挨拶 ・出欠調査 ・本時の説明 ・準備運動 ・用具の準備	・グループ編成の参考資料にするためのスキルテストを行うことを理解する。 ・実施する場所を決め、必要な用具の準備を行う。	・授業展開はグループ活動が中心になるためグループ編成の重要性を理解させる。 ・ボールを使ってのウォーミングアップも取り入れさせる。 ・準備する用具が多いので素早く能率的に行わせる。
展開	35分	・スキルテストを行うためのグループ分け ・記録用紙の配布 ・スキルテストの実施 ・記録用紙の提出	・4班に分けてローテーションを決めて行う。 ・種目毎の記入の仕方を理解する。 ・実施する種目の方法・内容と記録の測定方法を理解する。 ・以下の種目を行うことを理解し、各自記録用紙に正確に記入する。 ①ボールリフティング 腕以外の部位を使って、ボールを落とさないで連続して何回できたか。 ②往復ドリブル セーフティーコーンを使ってその間をドリブルしていき、タイムを測定する。 ③加速走 0メートルからスタートして10メートルから40メートルまでのタイムを測定する。 ④ペナルティーキック 予めゴールポストをビニール紐で区画しておき、キックしてどこに入ったかを記録する。 ・体育委員に記録用紙を提出する。	・グループ分けは特に配慮しないで便宜的な編成とする。 ・実施する種目の内容を良く理解させ、円滑にローテーションさせて行わせる。 ・スキルテストの記録は成績に関係なく、あくまでもグループ編成の参考にするためのもので、グループ毎の戦力があまり片寄らないように均等化をはかる目的で行うことを理解させる。 ・趣旨を良く理解させ、必要以上に意識をしないで、自己の能力を最大限に発揮できるようにリラックスして、また真剣に行うよう指示する。 ・記録用紙を提出する際、正確に記入しているか確認させる。
整理	5分	・整理運動 ・本時のまとめと次回の予告 ・片付け ・挨拶、解散	・脚部の屈伸、腰部の回旋等を中心に行う。 ・本時のまとめと次回の予告を聞く。 ・人数に応じてグループ単位で行う。	・次回はリーダーを発掘するための試しのゲームを行うことを告げる。 ・本時のまとめでは、自己の課題が見つかったかどうか確認しておく。 ・ライン引きの準備の指示をしておく。

単元名	サッカー	配当時間	20時間中　3時間目	学　年	第3学年1．3．5組　男子46名
本時のねらい	◎試しのゲーム ・試しのゲームを行い、リーダーを発掘する。また自己の能力を知り課題を発見し、今後の見通しを持たせる。 ・簡単なルールを理解し、安全にプレーすることを心がける。				
施設用具	・記録用紙 ・グランド（サッカー用ハーフコート1面）　・サッカーボール　・サッカーゴール　・ゼッケン ・ホイッスル　・キーパー用グローブ　・ラインズマンフラッグ　・石灰　・ラインカー				

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	10分	・集合、挨拶 ・出欠調査 ・本時の説明 ・準備運動 ・用具の準備	・試しのゲームを行うことを理解する。 ・ルールの根底にあるのは、フェアープレーの精神に基づいていることを再度、理解する。	・ここで行うゲームのグループ編成は便宜的なものとする。 ・安全については十分に配慮させる。 ・非紳士的行為についても触れておく。
展開	5分	・ルールの説明	・簡単なルールを理解し、安全にプレーする。 ①オフサイドについて。 ②直接フリーキックが与えられる反則。 ③間接フリーキックが与えられる反則。 ④スローインの方法。	・オフサイドについては、分かりやすく図解で説明する。 ・審判法についても簡単に説明する。ラインズマンの役割と対角線審判法について理解させる。
	28分	・記録用紙の配布 ・試しのゲーム ・記録用紙の提出	・種目毎の記録の仕方を理解する。 ・リーダーの発掘と個人の課題を発見するためのゲームを行う。 ・ゲームを行っている以外の生徒が、以下の3項目について相互評価を行う。 ①リーダーシップを発揮している。 ②意欲的にゲームに参加している。 ③技能的に優れている。 ・体育委員に記録用紙を提出する。	・危険な行為を注意し、安全にプレーすることを心がけさせる。 ・項目毎に第3位までを記入させ、1位3点、2位2点、3位1点として計算する。 ・ゲームの人数はグランドの広さに応じて7名～11名とする。 ・ゲームを通して自己の課題にも気付かせる。 ・他の生徒のよさに気付かせる。 ・記録用紙を回収する際、正確に記入しているか確認させる。
	2分	・体育委員への指示	・リーダーの選出とグループ編成の仕方を理解する。	・クラスの体育委員に試しのゲームの記録用紙を渡し、相互評価における高得点者数名（グループ編成の数に合わせる）を選出させる。 次に選出された者がリーダーになり、スキルテストの結果をもとに話し合いによりメンバーを選出してグループ編成を行うことを指示する。
整理	5分	・整理運動 ・本時のまとめと次回の予告 ・片付け ・挨拶、解散	・次回は各グループで全体計画の立案と次回の学習計画を立てるためのオリエンテーションを行うことを理解する。	・次回から学習ノート、学習資料の活用を指示しておく。

単元名	サッカー	配当時間	20時間中10時間目	学　年	第3学年1，3，5組　男子46名
本時のねらい	◎グループによる学習 ・個人およびグループの課題に基づいた効果的な練習を工夫・計画・実践しゲームに生かす。 ・他グループのゲームをよく観察するとともに対戦相手とのゲームの作戦を工夫する。 ・学習を進めていく上での手順を守り、メンバーが協力して安全に学習する態度を身につける。				
施設用具	・グランド（サッカー用オールコートまたはハーフコート）　・サッカーゴール ・サッカーボール　・学習ノート　・学習資料　・筆記用具　・ゼッケン　・ホイッスル ・セーフティーコーン　・ストップウオッチ　・ラインズマンフラッグ　・石灰　・ラインカー				

段階	時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入	5分	・集合 ・挨拶 ・出欠調査 ・準備運動	・集合、挨拶、出欠調査、準備運動はグループ毎に行う。 ・出欠係は出欠状況を教師に報告する。 ・できるだけ能率よく行う。	・メンバーとしての自覚を持たせ、お互いに協力し合いながら円滑に行うことを理解させる。
展開	5分	・グループ毎のミーティング ・用具の準備	・各グループが作成してきた学習計画について、本時の学習内容を確認する。 ・用具係の指示により、グループ毎に必要なものを準備する。	・個人とグループの目標や課題解決に向けて学習することを再度、理解させる。 ・教師は準備中にキャプテンを集め各班の学習内容を報告させる。
	33分	・グループの活動 ・ゲームの実施 ・整理運動 ・用具の片付け	・キャプテンを中心にメンバーが協力して、学習計画に基づいて自主的・主体的に活動する。 ・準備を素早く行い、予め決めておいた組合わせでゲームを行う。 ・審判、ボールタッチの記録係、他グループからの評価を行う係の生徒が役割を遂行する。 ・各グループで整理運動を行う。 ・各グループで片付けを行う。	・サッカーの不得意な生徒については、メンバーが協力して時間をかけて学習していくことを理解させる。 ・ゲームを通して、個人及びグループの課題を見いだすことを理解させる。 ・他のグループの生徒もゲームを見学させ技術や戦術について考えさせる。
	5分	・グループ毎のミーティング	・各グループで本時の評価を行う。 ・評価を基に課題を明確にして、課題解決に向けて、次回の学習活動の計画を立案する。 ・学習活動の計画を立案する際、学習資料を効果的に利用することを理解する。	・本時の評価、課題、次回の学習活動の立案等を学習ノートに記入させる。 ・個人の欄は授業終了後、休み時間や放課後を利用して記入させる。 ・学習資料を基に各グループが必要に応じて発展させた学習計画を立てることを理解させる。
整理	2分	・次回の学習の進め方 ・挨拶 ・解散	・本時の反省を生かし、次回からは個人およびグループの課題解決に向かい、より自主的・主体的に学習を進めていくことを理解する。	・グループ活動の意義を理解させ、各自が工夫・協力して学習を進めるように指導する。 ・個人やグループの課題解決のために学習計画の重要性を再認識させる。 ・学習ノートの提出期限を守らせる。

6．指導結果とその考察

仮説を検証するため、実証授業後、授業を受けた生徒を対象にアンケート調査を行った。その結果と考察を以下に示す。（対象　都立高等学校１校　３年男子　59名）

ア　「サッカーの授業に楽しく意欲的に参加できた」89.8%、「自分たちで課題を設定することができた」79.7%、「活動計画どおりに実践することができた」83.0%、「自分の役割を果たし、グループで協力して学習することができた」83.1%と回答している。

このことから、生徒やグループが適切な課題を持ち、学習計画を立案し、主体的に考え判断する学習が行えたと考えられる。

イ　学習ノートの活用については、「授業を進める上で役に立った」81.4%、「授業後の反省・評価の欄は、授業を振り返るのに役立った」86.5%、「他のグループからのゲームの感想は次の課題の設定に役立った」72.8%と回答している。

このことから学習ノートは、課題を設定するために大いに役立ったと考えられる。また「他のグループからの感想」は自分たちの課題を見つけるための客観的な資料として役に立ったと考えられる。

ウ　学習ノートの記入については「記入する内容事項は全体的に書きやすかった」86.5%、「評価項目の量は適切であった」94.9%、「教師からのアドバイスは参考になった」89.8%と回答している。

このことから学習ノートの内容事項を精選したことは適切であった。また「教師からのアドバイス」の欄は生徒とのコミュニケーションを図るとともに、生徒の課題設定や学習計画を立案する上で役に立ったと考えられる。

エ　学習資料については、「学習活動計画の作成に参考になった。」86.4%、「学習活動を効果的に行うために活用できた」79.6%と回答している。また、自由記述の中で「一問一答集」は役に立ったという記述が多く認められた。これらのことから、生徒は学習資料の必要性を認めている。しかし自由記述の内容からは課題解決学習の経験の少ない生徒にとっては、資料を「必要」と理解しながらも、読み考えることが「面倒である」という実感も伺われ、生徒の実態に合わせた資料集の作成が今後求められる。

オ　グループ編成については、「戦力差があまりないグループができた。」81.4%、「練習及びゲームを楽しく行うことができ、チームワークがとれた」76.3%と答えているように生徒が望んでいたグループ編成がうまくできたと考える。このことは「スキルテスト、試しのゲーム」がグループ編成をする上で大いに参考になり適切であったと考えられる。

カ　サッカーが不得意な生徒への取り組みについては、その生徒が「明るく楽しく学習することができた」76.3%、また「チームの協力、リーダーの助言があった」91.5%と回答しており、リーダーが中心となり、グループ全員で不得意な生徒がチームに溶け込めるように配慮し、その結果として明るく楽しく学習活動ができたと考えられる。

以上のことから、サッカーのゲームを通し個人やグループの実態に応じて適切に学習課題を設定し、学習活動を計画・実践することにより生徒一人一人が主体的に判断し、進んで学習する能力と態度を培うことができたと考えられる。

7．まとめと今後の課題

(1) ま と め

ア　オリエンテーション等の「学習Ｉ」を４時間設定することにより、選択制授業の趣旨と進め方について生徒の理解の徹底を図った。しかし、「選択制」という授業の経験が不十分なため、オリエンテーションの段階では、全員が十分に理解するまでには至らなかった。実際に、学習活動が始まり、学習ノートの活用・学習資料の利用により、学習計画を立て実践していくうちに、選択制授業に対する理解が深まっていった。

　また、グループ編成の方法として実施したスキルテスト・試しのゲームは、生徒の希望でもある「戦力差のあまりないグループ」「チームワークのとれたグループ」を編成する手段として有効であった。

イ　サッカーの不得意な生徒に対しては、リーダーやグループが学習しやすい環境づくりをして援助するなど、必要に応じて学習課題を設定、実践することにより、生徒一人一人が主体的に考え判断し、学習する能力や態度を培うことができた。

ウ　学習資料については選択制授業における活動の計画・実践に必要であり、その活用によって主体的に学習する態度や能力を高めることにつながった。また、今回作成した「一問一答集」は、課題解決に有効であった。

エ　学習ノートについては、内容を精選し、短時間で書き入れられるよう工夫した。そのことが学習課題の設定や課題解決のための学習活動の計画・実践に役立ち、主体的な学習を促すことにつながった。また、教師のアドバイスや他のグループからの感想は、個人やグループの学習課題を再検討し、より適切な学習計画の立案・実践に役立った。

オ　ゲームを通して、個人及びグループが課題を見いだし解決することで、より高い技能を習得することができ、サッカーの特性に触れることにつながった。

カ　３段階での自己評価や「他のグループからの感想」の相互評価は、自己の技能や活動状況を把握でき、次時の学習計画の立案に役立った。またこのことは、生徒の学習意欲を高めることになった。

以上のことから、仮説を検証できたものと考える。

(2) 今後の課題

ア　反省や計画のための十分な時間を確保する工夫

イ　授業中における教師の効果的な関わり方

ウ　生徒の実態に合わせた学習ノート・学習資料の一層の工夫

エ　評価・評定のあり方の検討

オ　スキルテストの内容の検討

『生活行動と健康（薬物乱用と健康）』

1．研究内容

近年覚醒剤など薬物依存に陥った人の増加が深刻な社会問題となっている。高校生においても薬物依存に陥る危険性は増している。こうした傾向に歯止めをかけ、改善していくためには特に青少年への適切な教育が大切である。高等学校の科目「保健」はこの意味で重要な役割を担っている。

科目「保健」においては生徒の側に立った学習指導を進め、学習意欲を喚起したり、学習内容を確実に身につけたり、主体的な学習の仕方を身に付けるようにするとともに、思考力、判断力を育て、意志決定能力を高めることが大切である。

以上のことを踏まえ、本研究では、生徒が「主体的に考え判断し、進んで学習する能力と態度を培う指導の工夫」を主題に、単なる知識の伝達だけでは防止が難しいとされる薬物依存の問題を具体的な内容にして、従来ありがちであった知識伝達型の授業の改善を図った。

もし生徒が現在および将来において、薬物依存の誘惑に駆られた際、どのようにそれを解決していけばよいか、そのときに必要な力とは何か、このような疑問を起点として実態調査を実施し、その結果の考察をもとに、次のような仮説を設定した。

☆仮説「生活行動と健康の内容を正しく理解し、生徒が自ら設定した課題を解決する学習活動を工夫することにより、主体的に考え判断し、健康な生活を実践する能力や態度を培うことができる。」

2．意識・実態調査とその考察

(1) 調査対象　都立高校保健体育科教諭　23校　70名

都立高校生徒　1202名

男子　592名　　女子　610名

(2) 調査内容

〔生　徒〕

- 薬物の名称や薬理作用に関する知識
- 薬物に関する情報源
- 薬物に関する経験
- 薬物に関する興味、関心、態度

〔教　師〕

- 薬物乱用に関する授業の実施状況
  取り上げている理由
  取り上げていない理由
  配当時間
- 薬物乱用に関する授業の計画状況
  授業での扱い方
  配当時間
  重点項目
  授業形式
- 保健での授業の評価

(3) 調査時期　平成6年7月

(4) 結果と考察

ア 生徒の実態調査

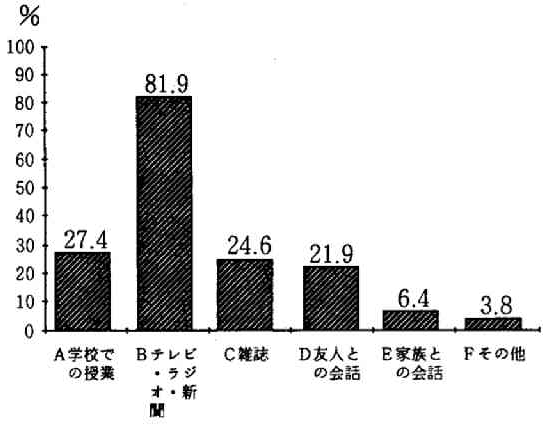
(ア) 薬物の名称や薬理作用に関する生徒の知識

アヘン、ヘロイン、シンナー、コカイン、マリファナ、覚醒剤、大麻などの名称は多くの生徒が知っており、逆にアンフェタミン、メタンフェタミン、アセトンなどの名称はほとんどの生徒が知らない。薬物の名称を知っていても、その薬理作用となると多数の生徒が説明できない。例えばヘロインについては「聞いたことがある」85.1%であるにもかかわらず、「説明できる」16.3%となっている。「麻薬に関する単一条約」や「フラッシュ・バック」(薬物の影響が乱用中止後に現れる)になると多くの生徒は理解できていない。これらのことから、薬物に対する適切な意志決定の能力を育む上で、必要な基礎的知識は何かを十分検討し、生徒に身につけさせる必要がある。

(イ) 生徒の薬物に関する情報源

生徒たちは薬物に関する情報を「テレビ・ラジオ・新聞」から得たと81.9%が回答している。「学校での授業」から得たと回答した生徒は27.4%であり、「雑誌」24.6%や「友人との会話」21.9%をわずかに上回っている。これらのことから、正しい科学的な知識・理解に基づき、薬物と健康に対する認識を深めさせる必要がある。(図1)

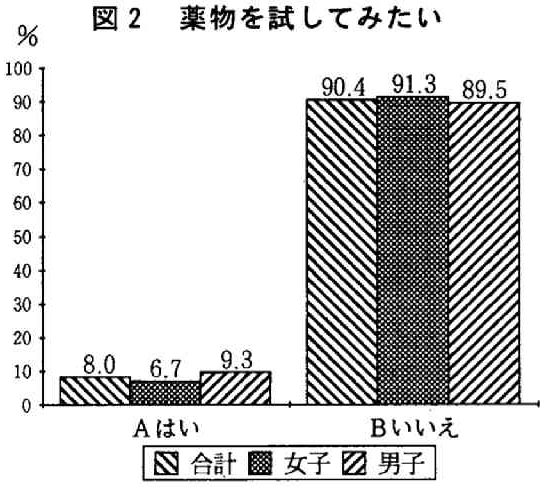
図1 どこで知りましたか



(ウ) 生徒の薬物に関する経験

「薬物の使用を誘われたことがある」と答えた生徒が8.4%いる。また、「あなたの周囲に薬物にかかわったことがある人がいますか。」という質問に対して「はい」と答えた生徒は19.5%であった。このことから、薬物に対して「ノー」といえる意志決定と行動選択のできる生徒の育成が求められる。

図2 薬物を試してみたい



(エ) 生徒の薬物に関する興味・関心・態度

「今までに薬物を試してみたい」と思ったことがあると答えた生徒は8.0%である。このことから、このような生徒の意識に留意しながら、薬物に関する正しい理解や態度形成を図る必要性がある。(図2)

「薬物依存」「薬物乱用」という言葉を聞いてどう思うかという問いに対する生徒の回答は「なんとなく恐い」32.1%、「自分には関係ない」27.3%、「重大な社会問題で

ある」21.0%となっている。

また、「薬物乱用に陥っている人に対してどう思うか」の問いに対する回答は、「ばかな人だと思う」38.9%、「厳しく罰するべきだ」17.5%、「その人の勝手だと思う」13.1%となっている。そして、薬物を乱用している人に対して「やめさせたいが、できないと思う」と答えている生徒は41.2%と多い。以上のことから、薬物について他人事として受けとめている生徒が多いが、反面、社会全体の問題としてとらえている生徒が少ないことを示している。したがって、薬物に自分が直接かかわっていなくても、社会の一員としてどのようにしたら人々が健全な生活をしていける社会になるかを考えさせる必要がある。

「欧米諸国の青少年の間では薬物が広がっているという話を聞きますが、これからの日本ではどうなると思いますか。」という質問に対して「広がっていく」71.6%、「もし今、薬物の使用を勧められたらあなたはどうすると思いますか。」に対する答えとして「はっきりと拒否するだろう」と答えた生徒は79.7%である。これらのことから薬物問題について生徒の学習の適時性に配慮しながら、いかにして生徒の意志決定及び行動選択の能力を高めていくか、指導の内容・方法等について、十分検討する必要がある。

イ　教師の実態調査

(ア)　薬物乱用に関する授業の実施状況

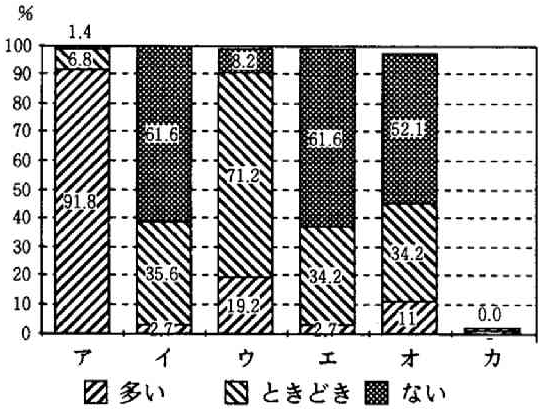
「薬物と健康」について、昨年までの授業で取り上げている学校は52.1%と半数の学校において実施されていた。取り上げている理由としては「身近な問題として必要性を感じていた」が72.5%と一番多い。配当時間は平均1.9時間で最大4時間、最小1時間であった。

(イ)　薬物乱用に関する授業の計画状況

新学習指導要領において、新たに取り上げられた「薬物乱用と健康」について、学習内容をどのように取り扱うべきかという質問に対して、「他の項目と同等に取り扱う内容だと考えている」と80.8%の教師が答えている。「重点的に取り扱う内容だ」と考えている教師に配当時間についてたずねると、平均2.8時間で最大5時間、最小2時間となっている。重点的に取り扱うとすると3時間ぐらいかける必要があるということになる。

授業のねらいとして最も重点を置く項目は、「薬物に対する適切な行動選択と意志決定の能力を養う」という回

図3　どのような授業形式が多いですか



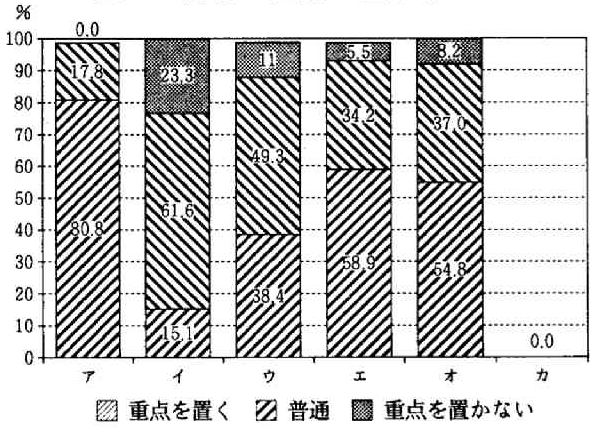
ア．講義、説明を主とする授業形式
イ．話し合いを主とする授業形式（ディベート、ロールプレイ、パネルディスカッションなど）
ウ．視聴覚機材を使っての授業形式（ビデオ、スライド、OHPなど）
エ．実験、学習的方法を用いて行う授業形式
オ．グループ別課題学習を用いた授業形式
カ．その他

答は38.4%である。学習内容について何を重視したらよいかについては、「薬理作用などの心身への影響」87.7%、「薬物依存の心理的な背景」78.1%という回答になっている。保健の授業形式についての質問では、「講義、説明を主とする授業形式」が91.8%で最も多く、次いで「視聴覚機材を使っての授業形式」19.2%となっており、ほとんどが講義形式の授業となっている（図３）。本研究の主題を前提として授業する際の中核的な授業形式についての質問では、「講義、説明を主とする授業形式」が57.5%と第一位を占め、次いで「視聴覚機材を使っての授業形式」が52.1%となっている。また、補助的なものとして取り入れたいものについては「話し合いを主とする授業形式」49.3%と半数であった。このことから生徒の学習への関心や意欲を高め、健康問題に対する思考力や判断力を育てるためには、多様な学習活動を取り入れるなどの授業改善を図っていく必要がある。

(ウ) 保健での授業の評価

保健の授業の評価をする場合、重点を置くものとして「知識・理解の習得状況」80.8%、「学習活動における意欲や協力の態度」58.9%、「日常生活において健康で安全な生活を実践する態度」54.8%となっており、依然として知識・理解の習得に重点が置かれている（図４）。しかし、今後は、評価の観点にある、授業の導入時での「関心・意欲」、課題解決を図る学習過程での「思考・判断」を重視していくことが求められる。

図４　評価で重点を置くもの



ア．知識・理解の習得状況。
イ．資料・文献等の活用状況。
ウ．意見発表をする能力。
エ．学習活動における意欲や協力の態度。
オ．日常生活において健康で安全な生活を実践する態度。
カ．その他。

３．指導計画

小単元「薬物乱用と健康」を通して、個人の生活行動と健康とのかかわりについて理解を深めさせるとともに、自ら進んで健康の保持増進を図る能力と態度を育てることをねらいとして指導計画を立案した。

(1) 指導のねらい

ア．「薬物乱用と健康」の学習を通して、主体的に考え判断し、自ら健康な生活を実践する能力や態度を培う。

イ．現代社会における薬物乱用の問題について深く認識させ、身近な問題として考えさせる。

ウ．主体的な学習活動を通して、適切な意志決定や行動選択の能力を身につけさせる。

(2) 指導の工夫

ア．生徒一人一人が自分の問題として考えられるように、５～６人のグループによる学習とした。

イ．薬物に関する基礎的な知識を理解させるために、資料を精選し、ワークシートの内容及び活用について工夫した。

ウ．薬物に対する理解や考え方を深めさせるためロールプレイングなよる学習活動を行う。ただし、生徒の学習経験や教師の指導経験等の実態に配慮し、ロールプレイングを簡素化したシナリオ作成や劇の上演、グループでの話し合いの方法をとることにした。

シナリオ作成にあたっては次のことに配慮した。

(ア) 何を調べるべきかなど、学習課題の設定も自ら行うようにさせた。

(イ) 薬物に関する事件・事例をもとに、独自のシナリオを作成させ、身近な問題として認識させた。

(ウ) シナリオ作成を円滑に進めるため、生徒の学習経験等に配慮し、場面に設定条件を設けた（設定条件については20頁の指導案を参照）。

(エ) また、場面に設定条件を設けることで、配布した資料等を活用させるとともに、さらに必要な基礎的知識について自らが学習するように指導した。

(オ) シナリオにそって上演することにより、薬物にかかわった人物の心情などについて各グループで意見交換を行った。

エ．生徒自身に学習活動を自己評価をさせることにより、学習状況をフィードバックさせた。

(3) 指導の留意点

ア．一方的な知識の伝達にならないようにグループでの話し合いの時間を多く設定し、薬物に対する考えや態度を育むように配慮する。

イ．シナリオ作成については薬物の問題をまじめに受け止め、単なる興味本意に終わらないように適切な助言を行うようにする。

ウ．各グループを個別にまわり、生徒からの質問・相談等を受け入れ、学習のつまずきを支援できるように配慮する。

(4) 評価の工夫

評価にあたっては「知識・理解」に偏ることのないように、評価の観点として「関心・意欲・態度」「思考・判断」に配慮し、次のような資料を活用した。

ア．シナリオの内容

イ．取り組みに関するチェックリスト

ウ．知識・理解についての客観テスト

エ．ワークシートの提出

4．指導事例（実証授業）

主題名	薬物乱用と健康	配当時間	3時間中の1時間目	学年	1年2組　40名（男子20、女子20）
本時のねらい	・グループによる学習を通して、意見を交換し関心を高め、積極的に学習する態度を養う。 ・「なぜ、人間が薬物に手を出すのか」を考えながら、薬理作用などの薬物に関する基礎的知識を理解する。 ・薬物乱用と現代社会との関わりを理解する。				

学習内容	学習活動	指導上の留意点
本授業の概要説明	この単元では、 ① グループによる学習を行う。 ② 3時間の学習の見通しをもたせる。	本時の授業が2、3時限目のシナリオ作成及び、上演につながることを理解させる。
1．薬物の名称	「主な薬物の名前を挙げてみよう。」 教科書や、資料集などを見ずに自分達の知っている範囲で薬物名を挙げる。 主な薬物の名称 麻薬 ┌ アヘン型 ── アヘン、モルヒネ、ヘロイン └ コカイン型 ── コカイン、コカ葉 大麻　マリファナ、大麻樹脂、液体大麻 覚醒剤　アンフェタミン、メタンフェタミン 有機溶剤　シンナー、トルエン、アセトン 幻覚剤　LSD、メスカリン、PCP	グループによる学習形態で行う。 ・1グループ5～6人とする。 ・机を向かい合わせにする。 ・発表者と、記録者を決める。 ・教師の発問に対し、グループで話しあい、考え答えさせる。 ・板書事項には、各人に配布されたワークシートに記入させる。 ・この他にも睡眠薬や、精神安定剤なども適切な使用をこえると他の乱用薬物と同じ働きをする事を知らせる。
2．薬物が及ぼす人体への影響	「薬物を使用すると、どのようないいことがあるのだろう。」 上記と同様に、グループ間で話し合う。グループごとにでてきたものを分類し、板書する。 人体に及ぼすと思われる影響 ハイな気持ちになる。眠気ざまし 心が安らぐ。痛み止め。せき止め。 疲労回復。集中力がつく。	・精神的な変化だけでなく、身体的な変化も考えさせる。 ・何故多くの人間が薬物に手を出すのか。手を出す人にとってその魅力とはいったい何なのかを話し合わせる。
3．薬物乱用とは	薬物乱用の説明を聞く。 薬物乱用：医療が目的でない薬物を快感を得るために使用する事や、医療の目的からはずれて使用する事。	・「医薬品」は、正しく使用することではじめて人体に役立つものであることを理解させる。
4．薬物依存と薬理作用	薬物乱用の影響を知る。 薬物の影響には、やめようと思ってもやめることができない、強い依存性があることと、人体を確実にむしばんでいく強い薬理作用とがあることを理解する。 薬物の影響 ┬ 薬物依存 └ 薬理作用 「資料1（薬物の連用の図）を見てみよう。」 空欄の中に適語を入れながら、薬物の依存性には二つの悪循環があることを理解する。 「資料2（主な薬物の薬理作用）を見てみよう。」 薬物によって、その薬理作用が異なっていることを理解する。	医薬品も含め、全ての薬物には依存性があり、そのため、使用上の注意や、量などに、つねに注意が必要であることを理解させる。 耐性、身体依存、精神依存、禁断症状の意味を説明し、理解させる。 薬物の使用をやめても、ある時期に突然と以前の症状が現れることがある。…フラッシュバック
5．薬物乱用のきっかけ	「資料3（薬物乱用のきっかけと誘惑の手口）を見てみよう。」	誰でも持っている感情や、何気ない誘いが、薬物乱用のきっかけとなっていることを理解させる。
6．薬物が引き起こす社会的悪影響	「資料4（薬物が原因で起こる事件や事故）を見てみよう。」 薬理作用によって起こる幻覚、妄想が種々の事件や、事故を引き起こすことを理解する。	薬物に対する基礎的知識を理解するとともに、薬物が現代社会の大きな問題となっていることを伝え、問題点を考えさせる。
7．アメリカの高校生との比較	「資料5（アメリカの高校生の実態調査）を見て、自分達と比較し、考えてみよう。」 ・グループで話し合う。 ・将来、日本の高校生がこのような数値になるかどうかも考えてみる。	将来の日本の高校生は果してどうなっているのだろうか、また、米国のような数値にならないようにするためには、私たちは何をすればよいのだろうかを考えさせる。
評価	・薬理作用などの薬物に関する基礎的知識を理解することができたか。 ・ワークシートや資料を有効に使用することができたか。 ・グループでの話し合いでは、積極的に自分の意見を発言することができたか。	

主題名	薬物乱用と健康	配当時間	3時間中の2時間目	学年	1年2組　40名（男子20、女子20）
本時のねらい	・シナリオ作成を通して、意見交換を行い、協力する態度を養う。 ・薬物に関する事件・事例を読み、これらの内容を題材にしたシナリオを作成する。 ・誘い・誘われなどの人間関係を描写することで、薬物の問題を身近なものとして考える。				

学習内容	学習活動	指導上の留意点
1．シナリオ作りの説明	薬物に関する3種類の記事や事例の中から、各班で一つを選び、その話の内容を題材とした「シナリオ」を作成する。 その際、以下に示した設定条件を満たしたシナリオを作成すること。	シナリオを作成することで、薬物の問題が他人ごとではなく、自分の問題としてとらえ、考えさせ、意志決定できる態度を養わせる。 薬物の問題をまじめに受けとめ、単なる興味本意に終わらないように適切なアドバイスを行うようにする。
2．作業開始	設定条件 ①薬物名や薬理作用を明記すること。 ②登場人物の描写の中に葛藤（どうしたらよいか思い悩む）状態を入れること。 ③時間は4－5分程度とすること。 ④登場人物や論争の焦点はそれぞれの設定にしたがうこと。	1時限目に配布した資料等を活用させ、誘い方・誘われ方など実際の場面を想像させる。 各班を個別にまわりながら、生徒からの質問、相談を受け入れ、適切なアドバイスをする。

A：シンナー吸引

Aは20才、父親は医者で病院経営をしている。Aには職業がない。父親所有のマンションの一室を与えられ、外車も自由に乗り回している。小遣いは文句を言われながらも相当額もらえる。暴力団の事務所に出入りしたこともあるが今は関係ない。高校を卒業していないので、自分で何とか頑張ってみたいと思い定時制高校に入学したが、学習も人間関係もあまりうまくいかない。自分より年下の仲間を集めて車で暴走するなどいろいろと遊んでみるが、何か満足できない。以前から経験のあったシンナーの吸引が頻繁になる。

修了式の日、布に染み込ませたシンナーを吸引しながら登校、その勢いで、「なぜ進級できないのか」と教師にくってかかる。まずはシンナーの習慣をやめさせようと説得する教師B、何が悪いのかとAに味方をするC、若いころ病弱で高校を卒業できず、40歳近くになった今改めて学習に意欲を燃やしている生徒Dも加わって・・・。

＊登場人物　A・B・C・D

＊論争の焦点をシンナー吸引の善し悪しに絞る。

B：マラドーナ「薬物」陽性

学校の教室、AとBは猛烈なマラドーナ選手のファンで、もちろんサッカー部に所属している。そのAとBが新聞記事を見ながら話をしている。薬物を使ってもサッカーでよい成績をあげられればそれでよい、というA。どのような場合でも薬物に手を出すのはいけないことだと主張するB。そこへAと同じ考えのCと、Bと同じ考えのDが話に加わって・・・。

＊登場人物　A・B・C・D

＊論争の焦点をマラドーナ選手の肯定側と否定側の意見の対立とする。

C：高校生が大麻パーティ

中学校時代の仲良しグループで、キャンプに出かけた。みんなで中学校時代の思い出話や高校の話などをし、楽しいひとときを過ごしていた。そのとき、突然、以前から大麻を吸っているAが、今も所持していることをみんなに話し、吸うことをみんなに勧めた。

何事にも好奇心旺盛なB子。絶対に否定しているC男。どうしたらよいかわからないでいるD子。それぞれいるが・・・。

＊登場人物　A男・B子・C男・D子

＊論争の焦点を、薬物を誘惑されてのそれぞれの心の葛藤とする。

3．まとめ	所定の原稿用紙に記入し、提出する。 できる限り、時間内に終了する。 「次回の授業では、実際にそのシナリオを上演する」ことを知る。	シナリオが観る側によく理解できる内容になっているか検討し、課題がある班には、適切に助言する。 臨場感をもたせる演技について工夫させる。
評価	・シナリオ作成を通して、意見交換を行い、協力することができたか。 ・薬物に関する問題を身近なものとしてとらえることができたか。 ・シナリオの内容は、設定条件を満たすことができたか。 ・シナリオ作成の際、資料等を有効に活用することができたか。	

主題名	薬物乱用と健康	配当時間	3時間中の3時間目	学年	1年2組　40名（男子20、女子20）
本時のねらい	・シナリオの上演を通して、さらに薬物に対する問題意識を深める。 ・グループでの話し合いを通して、意欲的に取り組む態度を養う。 ・問題の解決方法など、自ら適切な意志決定・行動を考える。				

学習内容	学習活動	指導上の留意点
1．本時の説明	本授業では、前時で作成したシナリオを実際に上演する。	
2．上演の準備及び上演	A・B・Cの各事例グループから、それぞれ1グループを選び、実際に上演する。 他のグループは観客となる。	上演時間を5分とする。
3．上演後のグループでの話し合い	上演後、各グループは以下のような人物描写に触れた質問に対し、グループ内で話し合いを行う。 質問事項 質問1　なぜ、A君は・・・・・ 質問2　なぜ、B君は・・・・・	それぞれの上演の後に、話し合いの時間を設ける。 質問事項は、その上演を見て設定するが、できるだけ登場人物の葛藤場面を対象とする。 特に1つの答えを出さず、それぞれの考えを尊重するかたちで終わりにする。
4．まとめ	話し合った内容を全体に発表する。	意見交換をしながら、自ら適切な意志決定・行動がとれるようにする。

完成したシナリオの例（C）

A男：「なー、オレさー、シンナー持ってんだ。誰かやらない？」
B子：「えっー、シンナー？それって吸うやつでしょ。でも吸うとどうなるの？」
A男：「とにかく楽しくなるんだよ。まわりの奴らがみんな仲間みたいに感じるんだ。」
B子：「本当？私時々『私って友達少ないな』なんて思うんだ。でもそんな気分になれるなら、やってみようかな。」
D子：「でも、保健の授業で『やっちゃダメ！』って言われなかった？」
C男：「そうそう。シンナーを吸い続けると、成長期のおれ達は背が伸びなくなったり、筋肉がつかなくなったり、体重が減ったり、大きな害を受けるんだ。」
A男：「別に何度もやるわけじゃねぇよ。今だけだよ、今だけ。それにせっかく先輩から仕入れたんだし…。」
B子：「そうだよ、1回だけだよ、1回。それに楽しくなる上に、体重が減るなんて、一石二鳥じゃん。ねぇD子。」
D子：「うん。でも背が伸びなくなるって言うし・・・、やっぱり・・・。ねぇC男」
C男：「1回だけって言ったって、薬物にはまた欲しくなる『依存性』ってやつがあって、薬物なしではいられなくなるんだ。それに医薬品みたいに徐々に量を増やさないと効果がみられなくなるんだ。」
A男：「そんなのは意志の弱いやつで、やめようと思えばやめられるよ。」
B子：「そうだよ。意志だよ、意志。」
D子：「でも確か、『フラッシュバック』とか言う作用がなかったっけ？」
C男：「そうそう、いくら意志が強くてやめられたとしても1年ぐらいたって突然、薬物を使ったときみたいな症状があらわれるんだ。それに最近では殺人や放火、窃盗や傷害事件などの刑事事件も薬物使用のせいで多発しているんだ。」
D子：「そんなことがあるんだ。薬物ってほんとうに恐いんだね。」
B子：「そういえば、TVでコカインで逮捕したとか言ってたけど。」
C男：「薬物についてはいろいろ規制があって、シンナーだと1年以下の懲役になるし、外国では死刑になることもあるんだよ。」
D子：「ねぇB子。やっぱりやめた方がいいよ。なんかすごく恐いよ。」
B子：「そうだよね。刑務所なんてヤダもんね。A男君、私やめる。」
A男：「何だよ。B子まで。C男は大げさにいってんのがわかんねぇのかよ。いいよ俺が一人でやるからよ。」
C男：「なら勝手にしろよ。そのかわり俺達は無関係だからな。」
A男：「俺、やっぱり・・・、よすよ。」
D子：「もしやってたら、大変なことになってだだろうね。でも、さっきB子に誘われたとき、断ったら友達やめられそうで、はっきり断れなかった。」
C男：「薬物を始めるきっかけって言うのは、D子のように親友に誘われてはっきり断れなかったとか、今の時期にありがちな受験のストレス解消のためとか言うことが多いんだ。だから自分の意志表示をしっかりすることが大切なんだ。」
ナレーター：そして4人はその後見事志望校に合格し、クリーンな高校生活を過ごしました。

評価	・シナリオの上演を通して、さらに薬物に対する問題意識を深めることができたか ・グループでの話し合いは、積極的に意見を発言することができたか。 ・問題の解決方法など、自ら適切な意志決定・行動が考えられるようになったか。 ・自己評価を行い、「薬物乱用と健康」の全般にわたり学習状況をフィードバックする。

5．指導結果とその考察

仮説を検証するため、実証授業後、授業を受けた生徒を対象にアンケート調査を行った。その結果と考察を以下に示す。

対象　都立高等学校　2校（1学年　男女クラス　6講座）

ア．グループによる学習については、「楽しく、意欲的に取り組めた」と回答している生徒が87.9%であった。さらに、「友達の考えが聞けてよかった」は87.9%、「自分の意見が言えてよかった」は84.9%が回答し、従来から行われている講義形式の一斉授業を経験してきた生徒達には、グループによる学習は新鮮に受けとめられ、成果をあげたと考える。（図5）

イ．シナリオ作成については、「楽しく、意欲的に取り組めた」は88.4%、「知識の理解に役立った」は87.9%、「薬物に対する自分の考えを深めることができた」は92.7%の生徒が回答しており、いずれも高い数値を示し、薬物に対する事件・事例をもとに、具体的な場面設定を与えることにより、ほとんどの生徒が取り組みやすかったと考える。また、シナリオ作成という学習活動を進めていくうえで、はじめは雑談的で、興味本意の話し合いが行われる傾向にあったが、シナリオを完成させるためには薬物に関する知識の理解や自分の考えを深めなければならないという生徒の意識が高まり、真剣な取り組みになっていった。（図6）

ウ．学習指導、ワークシートについては、「考えを深めるのに役立った」と96.1%の生徒が回答しており、内容的にも適切だったと言える。しかし、シナリオ作成時には、さらに細かな知識を必要とする場面もあり、その時の対応を工夫する必要があると考える。

エ．「薬物乱用と健康」の授業に対しては、「もっと薬物乱用について知りたいと思った」は89.7%、「薬物乱用は身近で重要な問題であると思った」は93.9%の生徒

図5　グループによる学習について

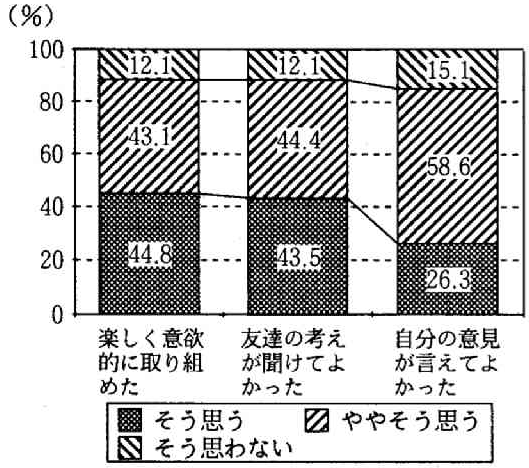


図6　シナリオ作成について

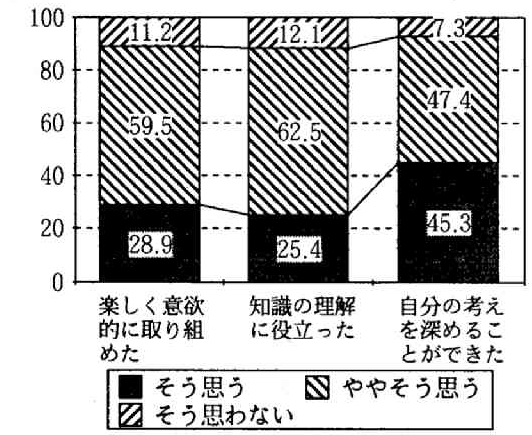
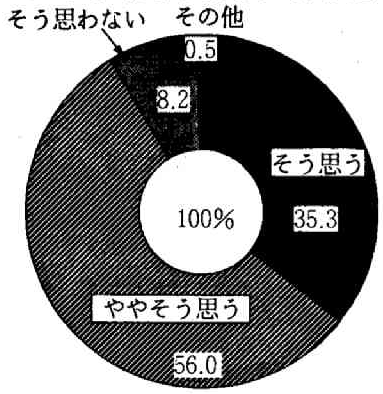


図7　酒やタバコなどの生活行動と健康についても考えるようになった



が回答しており、薬物に対する生徒の認識もより深くなったと考える。

オ.「薬物乱用だけでなく、酒やタバコなど生活行動と健康について考えるようになったか」という質問に対しては91.3%の生徒が「考えるようになった」と答えた。このことは薬物乱用の問題にかぎらず、より広く自らが健康な生活を実践するというねらいも達成できたと考える（図７）。

カ.「薬物乱用に陥っている人が身近にいた場合、やめさせようと努力したい」との問いには、95.7%の生徒が「はい」と答えており、事前アンケート（68.3%）より高い数値を示した。

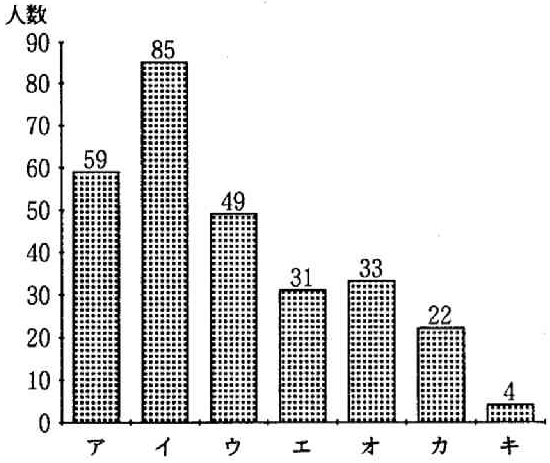
このことは、薬物乱用の授業の中で重視した「適切な意志決定・行動がとれること」のねらいが達成できたと考える。

キ.「薬物乱用に陥っている人を見たとき、本人の責任だけでなく、自分も社会の一員として責任を感じる」と答えた生徒が73.7%と他の項目と比較するとやや低い数値ではあるが、「社会の一員としての自覚」を育むという点については既ね達成できたと考える。

ク.「日本ではこれから薬物が広がっていくと思うか」という問いに対しては、75.9%の生徒が「そう思う」と答え、事前アンケート（71.6%）の結果と変化はみられなかった。

ケ. 薬物乱用の授業を実施した感想文には「薬物についての知識・理解が深まった」、「身近な問題としてとらえられた」などの意見が多くみられ、薬物の問題について深く認識させ、身近な問題として考えさせたということでは成果が得られた。

図８　授業後の感想文からみられた意見



ア. 身近な問題としてとらえられた
イ. 薬物についての知識など色々なことを知る事ができた
ウ. 授業が楽しく、理解できた
エ. グループで話し合うことで、考える授業ができた
オ. シナリオ作成を通じて、理解できた
カ. その他。
キ. 興味関心が持てなかった

また、グループによる学習やシナリオ作成についてもかなり多くの生徒が「よかった」という意見をもっている。（図８）

以上のことから、学習内容、学習形態を工夫することにより、生徒自らが設定した学習課題を生徒同士が協力して、自主的に学習を行うことができ、その結果、自ら進んで学習し、考え判断する能力や態度を培うことができたと考える。

6．まとめと今後の課題

(1)　まとめ

学習形態・学習過程に工夫や配慮を行うことにより、従来の講義主体の知識伝達型の一斉授業から、生徒が自主的・主体的に取り組む参加型学習となり、おおいに学習効果を上げることができたと考える。

ア．グループによる学習は、自分の意見をまとめ発言することにより、自分の意見を仲間に反映させるとともに、他の人の考え方を知ったり、受け入れたりすることができ、楽しく意欲的に学習活動に取り組むことができた。

イ．学習資料やワークシートを工夫したことにより、基礎的知識をより浸透させることができた。

ウ．生徒はシナリオ作成を通して、薬物問題を自分自身の問題として考えられるようになり、薬物に対して適切な意志決定や行動を取る自覚と自信をもつことができた。

エ．各班のシナリオに基づき劇を上演し、それをもとに討議する授業形式は、自分以外の人の考え方や感じ方を知り、自己の薬物乱用防止に対する考えを発展、深化させることになった。

オ．「薬物と健康」という一つの課題解決を図る学習を通して、「生活行動と健康」の他の課題についても、自分自身の問題として考えられるようになり、大きな波及効果をもたらした。

以上のことから仮説を検証することができたと考える。

(2)　今後の課題

ア．グループによる学習では、話し合いや劇の上演の効果を考え、班編成の構成数を考慮する必要がある。

イ．参考資料や文献がすぐに使える図書館や視聴覚室等で学習活動が行えるよう工夫する必要がある。

ウ．発表の授業では表現力に欠けたり、単調にならないよう、一層工夫する必要がある。

エ．ワークシートの工夫・改善を図り、学習活動における自己表現や自己評価の場として活用することが大切である。またワークシートを発展させて学習ノートとして活用することも考えられる。

オ．生徒の自己評価・相互評価を教師の評価にどう結びつけていくか、研究する必要がある。